

『別称』を使おう！

小平市 小俣一郎

◎私の提案

- ①. 正式名称は変更しない。
- ②. 「通称」は廃止し、「別称」を新たに決定する。
- ③. 今後、対外的には常にこの「別称」を使用する。

◎名称問題に対する私の認識

- ①. 「『平成維新』を名乗る団体が、特定の政党に所属する議員・候補者を、推薦あるいは支援すると、あたかも大前さんが推薦あるいは支援をしているように世間では錯覚されるので、会としての推薦行為等は行わないでほしい。もし行うのであれば、会の名称を変更してほしい」との要望が、大前さん本人からもあった。
- ②. 改名要求に、「会の独自性を侵すものだ」と怒っている人もいる。
- ③. 会員の中には「平成維新」の名前に愛着を持っている人もいる。
- ④. 会の名前を変えないことが大前さんのためであるとさえ思っている人もいる。
- ⑤. この会は、大前さんの理念は引き継ぐものの、全く別の組織であり、そのことを明らかにするためにも、「平成維新」の入っていない名称に変更した方がよいと思っている人もいる。

◎私も愛着を持つ一人です

私が「平成維新の会」の会員になったのは、平成5年の4月。以後、「平成維新の会」の活動にそれなりに関わってきた私にとって「平成維新」は非常に愛着のある言葉です。

また、「都民の会」は、「平成維新の会」の解散のとき、「今後は各団体が活動の主体となり、自主・独立の運営を行う」という、当時の「全国道州評議会」の決定を受けて結成された団体であり、会の名称も含めて、本来、横槍を入れられるべきものは何も無いと思います。

◎大前さんとのトラブルはいかがなものか

しかし、大前さんご自身が「使わないで欲しい」と望むのであれば、変更を考えてもいいのではないかと、とも私は思います。

確かに、生活者主権とは違い、「平成維新」は、イコール「大前研一」と取られてしまう言葉です。現在中立の立場で評論活動を展開し、落選・会の解散というどん底から立ち直り、輝きを取り戻した大前さん。その足を引っ張りたくはありません。ここは柔軟に対処してはどうでしょうか。

私は、大前さんとは協力こそすれ、トラブルを抱え込むのはどうかと思います。

◎「KANプロジェクト」はダメ？

「『KANプロジェクト』に会として協力することが、大前さんに迷惑をかけている」

総会の代表選挙の際の山本さんの発言に、私は衝撃を受けました。市民の力の後押しで「菅政権」をつくり、改革を実行していく。「『KANプロジェクト』こそ、正しく『平成維新』だ」と私は思っていたからです。

「KANプロジェクト」は「政党の枠を超えて、もう一つの政権選択枝を作り出そう」という、民主党とは関係のない市民運動です。しかし、「KANの冠を戴いているために、世間一般では、民主党応援団と見られてしまう」ことも完全には否定できません。大前さんに迷惑をかけるつもりは毛頭ありませんが、かといって「KANプロジェクト」の旗を下ろすこともできない相談です。

すると、自ずと道は限られてくると思います。

◎会の分裂は避けよう！

「名称を変えるのならやめたい」とか、「名称を変えないのならやめたい」と発言する人もいて、役員の中でも意見は対立しています。

都民の会が発足して既に3年。維新の会のときに比べればかなり会員は減りましたが、これまで協力していろいろなことをやってきました。しかし、ここで分裂して「会員がさらに減る」といったことになると、今後の活動においてかなりのダメージになるのではないのでしょうか。

◎折衷案ではご不満もありませんが・・・

そこで提案したいのが、文頭に掲げた折衷案です。「いい加減だ」と思う人もいるかもしれませんが、私は、現時点ではベストではないかと思えます。「KANプロジェクト」といった、我々にとって恰好のテーマが出てきたいま、会の力を削ぐようなことは避けるべきです。会の分裂を避けるために、双方が譲歩しあうことが必要だと思います。

◎本名は「心のふるさと」として取っておこう

かつての支援センタースタッフであり、現在は、「平成維新を実現する会・全国協議会事務局」を担当されている、林さんに確認したところ、「別称を使うのならば、大前さんとのトラブルは解決しましょう」とのことでした。

どうでしょうか。「平成維新を実現する都民の会」という本名は、「心のふるさと」として会則に残し、個人的に使うに留め、公式には「別称」を全面的に押し出して活動していくというのは。